

非稼働病棟を有する医療機関への対応について（案）

1 推進委員会で決定した非稼働病棟を有する医療機関への対応方針（於：H30 第1回委員会）

- ①非稼働病棟を有する医療機関から、事前に、書面により今後の見通し等を提出していただく。
- ②地域医療構想推進委員会に該当医療機関から提出された今後の見通し等について、資料としてお示しし、協議を行う。
- ③説明が不十分であった医療機関に関しては、次回の推進委員会に出席していただき、説明を求める。

2 調査の概要

役割や機能を大きく変更する医療機関を把握するため、令和元年10月に病床機能報告対象の全病院、有床診療所を対象に、県調査を実施するとともに、非稼働病棟を有する医療機関に対して当所の独自調査を実施した。

(1) 調査対象

病床機能報告対象の全病院、有床診療所
56施設（東三河南部構想区域）

(2) 非稼働病棟の定義

平成30年7月1日から令和元年6月30日までの過去1年間に1度も入院患者を収容しなかった病床のみで構成される病棟

(3) 非稼働病棟を有する医療機関数

4施設（公立・公的1施設、その他の医療機関3施設）

(4) 豊川保健所が実施した再調査の内容

- ・県提出済みの内容の再確認
- ・独自の項目の追加

『地域（構想区域）において今後担うべき役割（病床の再稼働により地域で担う役割）』

3 書面協議対象医療機関

- ・ 推進委員会で決定した非稼働病棟を有する医療機関への対応方針」の(1)に該当する医療機関は4施設（公立・公的1施設、その他の医療機関3施設）。

令和元年度第2回推進委員会において書面協議をしていただく医療機関

(3 医療機関)

1. 豊橋医療センター（豊橋市）
2. 豊橋ハートセンター（豊橋市）
3. 豊生病院（豊橋市）

今回書面協議を行わない医療機関（1 医療機関）

1. ふじい整形外科（蒲郡市）

【公的医療機関等2025プランに準じた事業計画協議対象となっており、事業計画協議結果を踏まえて検討する必要があるため。】

4 協議する内容

- (1) 病床を稼働していない理由
- (2) 当該非稼働病棟の今後の運用見通しに関する計画

5 今後の予定

- ・ 本日の協議で委員から出た意見を事務局において取りまとめの上、議長の承認を得て、医療機関宛て通知する。
- ・ 計画に関する補足の意見や、追加の説明を求められた医療機関に関しては、次回の推進委員会に出席していただき、継続審議を行う。

非稼働病棟を有する医療機関

1 協議対象医療機関

医療機関名	所在地	新規・継続	非稼働病棟について(令和元年7月1日現在)							非稼働理由	解消に向けた取組	地域(構想区域)において今後担うべき役割(病棟の再稼働により地域で担う役割)	令和元年度7月1日現在の稼働機能 ※＝病棟が担う稼働機能					
			病棟名	病床数	非稼働開始時期	予定	再開後の機能	予定時期	具体的な時期				高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養等	計
独立行政法人国立病院機構豊橋医療センター	豊橋市飯村町宇浜道150	新規	西4病棟	50床	2018年3月	再開予定	急性期	2023年度まで		看護学校等の看護師養成機関への訪問、人材紹介会社の活用及び就職フェアの出展等、看護師確保のための取組を行っている。 なお、人材確保においては、国立病院機構法人全体で取り組んでいるところでもある。	現在当院においては、看護師不足等の影響から平成30年3月～1病棟(西4病棟)を休棟している状況である。休棟している主な要因である看護師確保については、看護学校等の看護師養成機関への訪問、人材紹介会社の活用及び就職フェアの出展等、看護師確保のための取組を行った結果、令和2年4月1日の見込みでは前年同月と比較して、10名以上確保が出来る見込みである。 しかしながら、現在のところ開棟に必要な人材確保まで至っていないため、具体的な開棟時期の目処は未定である。 当院における昨年度の院内全体の病床全体の病床稼働率は、90%を超えている状況であり、また、慢性期病棟である重症病棟を除いた急性期医療の稼働率についても89.2%と高稼働率を維持している。・・・①	0床	288床	0床	40床	50床	388床	
豊生病院	豊橋市多米西町1丁目21-1	新規	—	38床	2018年6月	再開予定				(医)善恵会へ事業譲渡 手続中 ※事業譲渡後、善恵会豊生病院として稼働し、善恵会長生病院の事業計画に基づいた取り組みを行うことを確認。		0床	0床	0床	0床	36床	36床	
豊橋ハートセンター	豊橋市大山町字五分取21番地の1	H30より継続 変更なし	—	50床	2013年6月	再開予定	高度急性期	2024年度以降	2025年4月	当院は1999年に19床で開院して以来、2000年に30床、2001年に68床と増床し、2012年には130床と増床した。現在地にて増設予定であった。しかし、2011年3月に発生した東日本大震災の結果、現在の立地場が津波と液状化の影響を直接受ける場所であり、この場所を増設を行うことが困難となった。その為、現在50床が実質病床状態となっている。 50床病床により、特に冬季の受入困難状況となっている。	2015年8月、愛知県において、南海トラフ地震など地震・津波災害に対し、強靱な地域づくり推進のための計画として、「愛知県地域強靱化計画」が策定されました。その中で、地震・津波災害に伴う医療機能の麻痺リスクに対応するために、浸水域にある二次医療機関等の移転等の施策に位置づけられました。これを受け2015年11月、豊橋市より当院に対し、移転等の措置を要請されたため、現在、移転予定地、移転時期等移転計画について、豊橋市と協議中であります。従って、当院としては、移転、建替準備時点において、現在病床中の50床をフル回転させ、超高齢化を迎える中で増加することが予想される循環器疾患の治療に貢献したいと考えている。	①増大する循環器疾患への対応するため、高度急性期病床を100床以上確保する ②CCU病床を引き続き設置し、高度急性期医療機能の強化を担う。 ③地震・津波災害時における心血管疾患を中心とした災害時医療体制を強化し、災害拠点病院の補充機能を担う。 ④その他、「脳梗塞への対応強化」、「救急医療体制の一層の強化」、「低侵襲手術の推進」、「循環器疾患の包括的リハビリテーション機能の強化」、「地域包括ケアシステムに対応した、在宅医療を含む心不全・循環器緩和ケアに関する取り組みの強化」、「地域医療連携の一層の強化」、「次世代を担う人材育成」などを推進する。	80床	0床	0床	0床	50床	130床

2 次回以降協議を行う医療機関

- 医療機関名
ふじい整形外科
- 所在地
蒲都市拾石町本郷77
- 今回協議を行わない理由
公的機関等2025プランに準じた事業計画協議対象のため、計画の協議結果を踏まえ、次回以降に非稼働病床の協議を行う。